

本校男子学生の体格・体力・運動能力 に関する調査研究

(平成元年度から平成10年度までの追跡)

石尾 潤*, 中村貢治*

An Investigation on the Figure, Physical Stength and Ability of the Male Students Conducted from 1988 through 1997

Jun ISHIO and Kouji NAKAMURA

Abstract : Various follow-up investigations have been made on the sport tests carried out at our college every yare, and this is an overall one on the physical strength and ability of the male students from 1988 to 1997. The reason is that, since some changes in the items, methods etc. were added to the sport tests in 1999, on comparative study has made sense between any data before 1998 and those after 1999.

1. まえがき

本校は毎年、学生のスポーツテストを実施しており、各年度において調査人員、年齢別の平均値及び標準偏差を出している¹⁾。このデータを使用して、本校男子学生の体格・体力・運動能力を平成元年度から平成10年度まで比較検討する事にした。

平成11年度から新スポーツテストに変わった為、平成10年度までの種目、測定方法が異なり比較する事が出来なくなった。このことから、本校男子学生の体格・体力・運動能力を平成元年度から平成10年度までの10年間を比較検討することで、これまでのスポーツテストのまとめにしたい。

2. 調査方法

毎年実施している身体測定とスポーツテストのデータをもとに、本校男子学生の体格2種目(身長、体重)、体力診断テスト7種目(反復横とび、垂直とび、背筋力、握力、伏臥上体そらし、立位体前屈、踏台昇降運動)、運動能力テスト7種目(50m走、走幅とび、ハンドボール投げ、懸垂腕屈伸、持久走)と合計点を平成元年度から平成10年度まで約5600

名を種目、年齢別に平均値及び標準偏差を算出、図・表にまとめた。

平成3年度までは15歳から19歳まで測定を行って来たが、平成4年度からは18歳までしか測定を行っていない。このため表、図は15歳から18歳のデータを使用した。

図(1~16) 15歳から18歳の種目別平均値

1) 表. 1 15歳の年度別平均値

2) 表. 2 16歳の年度別平均値

3) 表. 3 17歳の年度別平均値

4) 表. 4 18歳の年度別平均値

(M. 平均値、S. D. 標準偏差、N. 調査人員)

3. 結果と考察

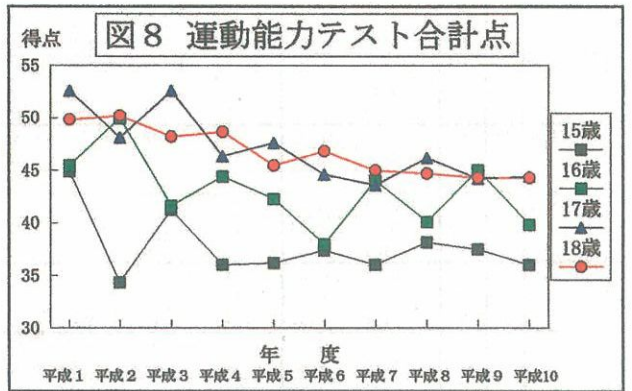
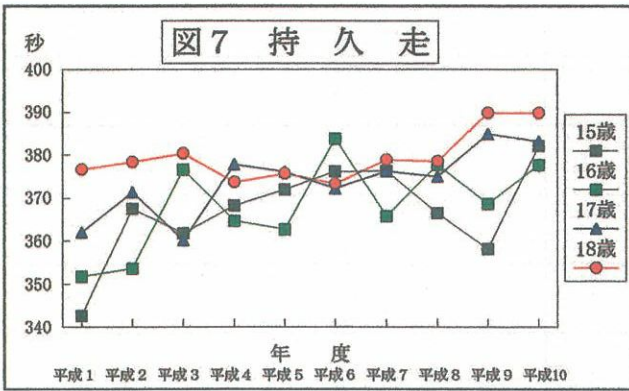
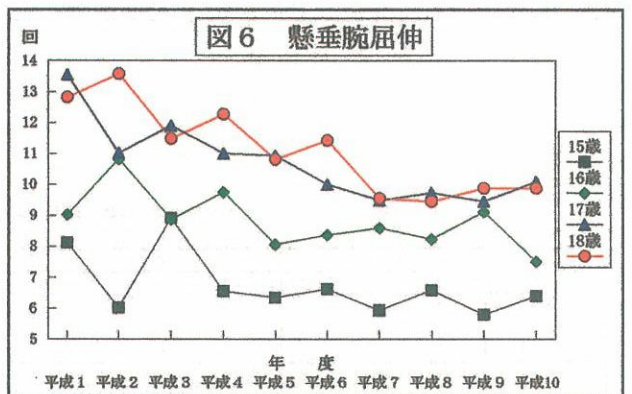
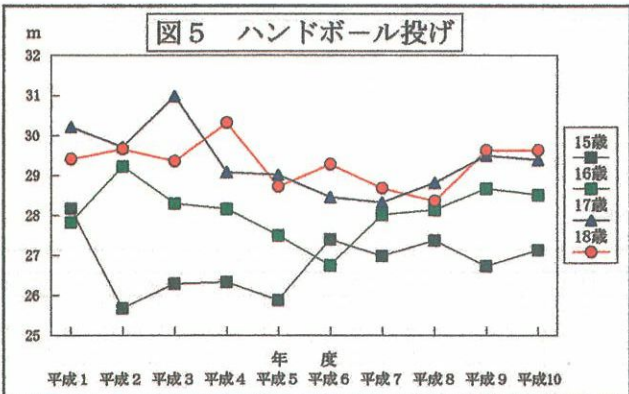
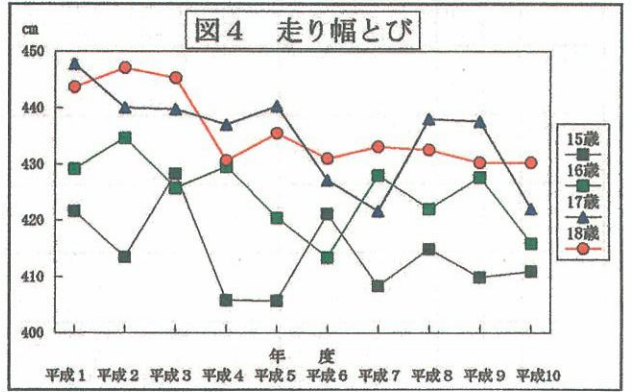
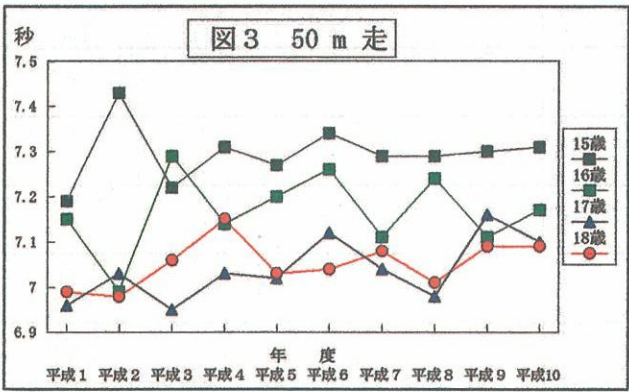
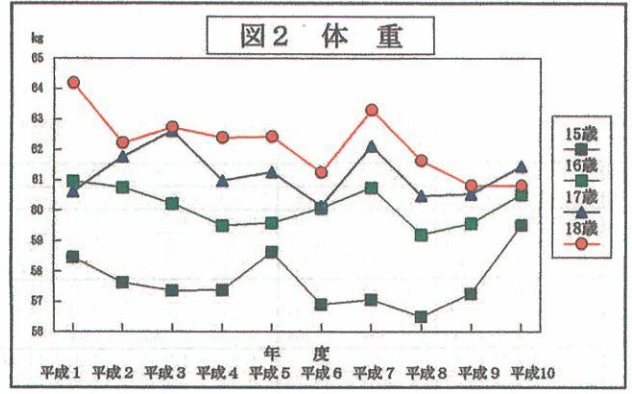
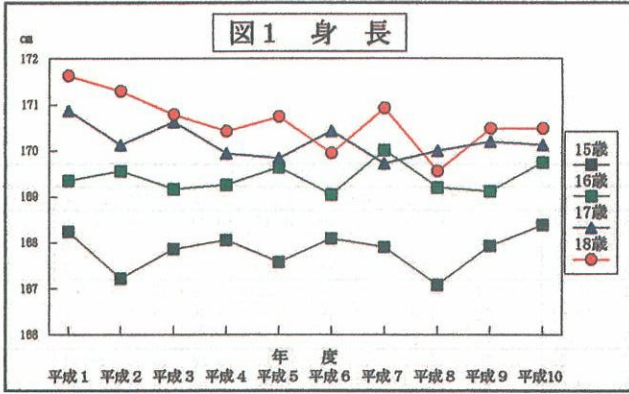
体格の身長、体重については、この10年間を見ると双方とも各年齢で平均値、標準偏差ともわずかの変化にとどまっていて横這い状態である。

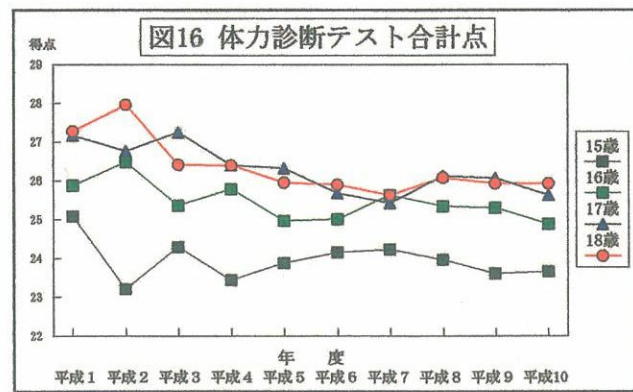
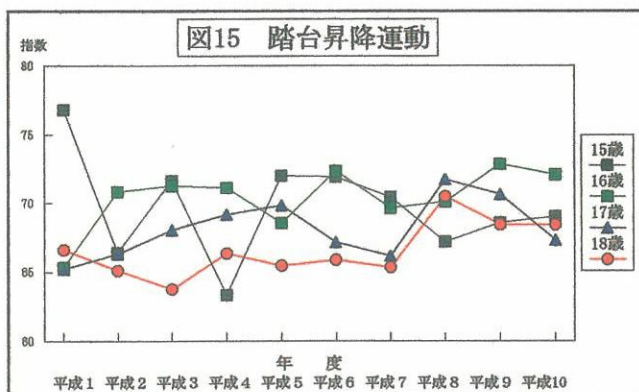
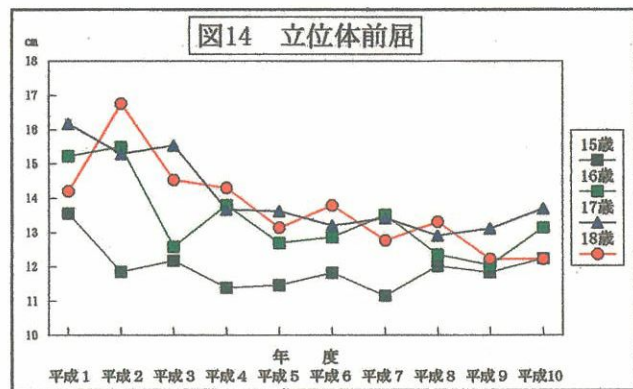
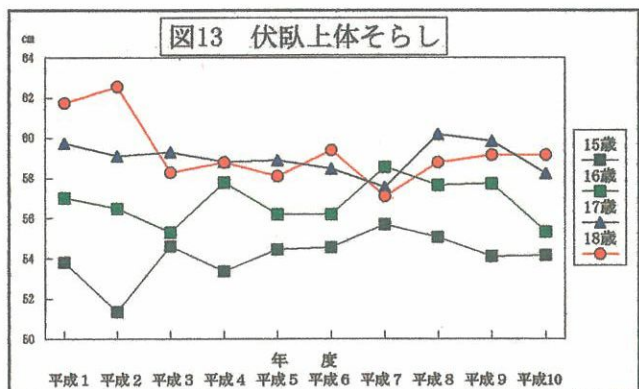
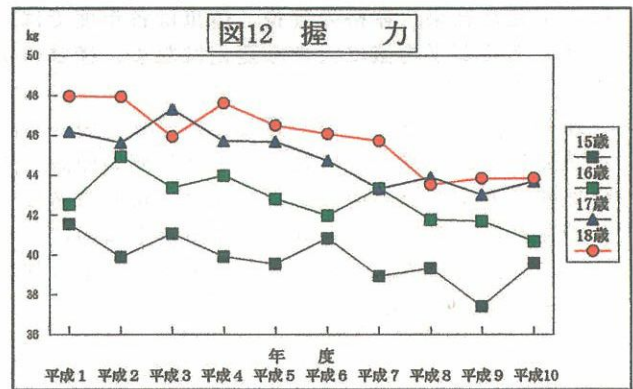
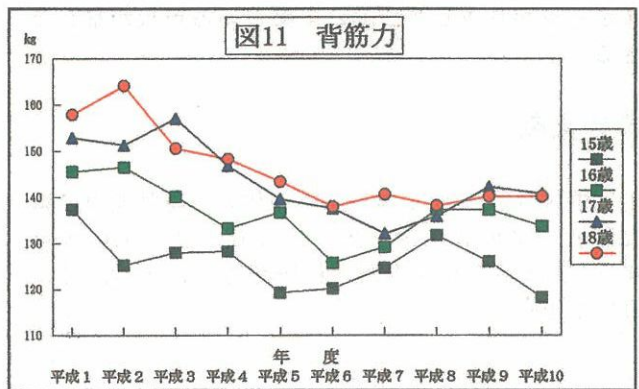
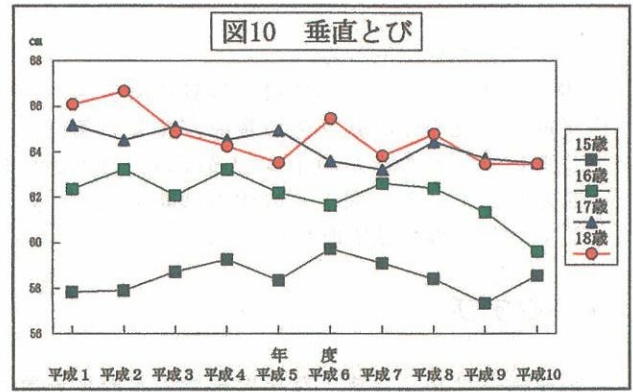
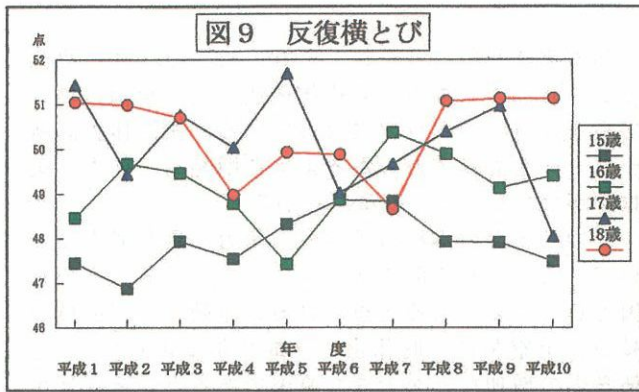
運動能力テストについては、平成2年度の15歳学生の数値が大きく低下している種目がある。特に50m走、懸垂腕屈伸、ハンドボール投げは平成元年度学生と比較してみると大きく下回っている事がわかる。

また、運動能力テスト合計点(図8)を見るとはっきりと見て取れる。この10年間の運動能力の全体を比較すると図8でわかるように全体的に下降傾向

(2002年 12月 27日受理)

*宇部工業高等専門学校 体育教室





にあることが見て取れる。

体力診断テストについては、運動能力テストと同様平成2年度の15歳学生の数値が多く種目で低下している。そのほかの年度は横ばい、わずかな低下を示している。図16の体力診断テスト合計点を見てもその事が見て取れる。

4. むすび

平成元年度から平成10年度までの本校男子学生の体格、体力、運動能力を測定し平均値等を表、図にして見た結果、体格の身長、体重は各年度でばらつきはあるが平均値に大きな変化はなく、横ばい状態である。

運動能力テストについて見ると、図6、図4の懸垂腕屈伸や走り幅とびにおいて10年間の傾向は下降気味である。その他の種目も横ばい状態であり図8の運動能力テストの合計点を見ると全体的に下降気味になっている。このことから近年の学生は筋力の低下が見て取れる。

体力テストについても、図10、11、12、14の垂直とび、背筋力、握力、立位体前屈はどの年齢においても下降気味のグラフになっている。また体力診断テストの合計点でも分かるように瞬発力、筋力、柔軟性がなくなっている事がわかる。

このことから本校男子学生の体力、運動能力について、この10年間で弱くなってきている。この原因としては多くあると思われる。運動クラブ部員の減少、全寮制の一時休止（平成2年度より）、帰宅部学生の増加などが大きな原因であろう。テレビゲーム、パソコン、アルバイト等による学生の興味がスポーツから少しずつ離れて来ている現状が察しできる。

参考文献

- 1) 中村貢治, 他: 本校学生の体力、運動能力の調査研究(平成2年度学生~平成6年度学生の5年間), 宇部工業高等専門学校研究報告, 第43号, 215-220, 1997